PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 55087925 A

(43) Date of publication of application: 03.07.80

(51) Int. Cl G01J 3/18

(21) Application number: 53163456 (71) Applicant: HASUMI RITSUO
(22) Date of filing: 26.12.78 (72) Inventor: HASUMI RITSUO

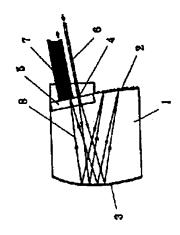
(54) ASTIGMATISM CORRECTION TYPE SPECTROSCOPE

COPYRIGHT: (C)1980, JPO& Japio

(57) Abstract:

PURPOSE: To correct the astigmatism of the spectroscope easily by using a medium of a slab lens.

CONSTITUTION: The slab lens medium 5, optical fiber 6 for incident ray and optical fiber bundle 7 for emission ray are attached to the clear dielectric 1 wherein the plane diffraction grating 2 and the cylindrical reflection mirror 3 are formed on the wall and the incidence-emission apertures are made one body. In this way, the incident ray from the optical fiber 6 is made a parallel ray by the cylindrical reflection mirror 3, diffracted by the plane diffraction grating 1, converged to the optical fiber bundle for emission ray by the reflection mirror 3 for each wave length. That is, the light is converted into a parallel ray by the slab lens medium 5, passes through the clear dielectric 1 as it is a parallel ray, and joined by the optical fiber bundle 7 for emission, accordingly, the astigmatism can be easily be corrected.



(9) 日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

⑫公開特許公報(A)

昭55-87925

(1) Int. Cl.³ G 01 J 3/18

識別記号

庁内整理番号 7172-2G **③公開** 昭和55年(1980)7月3日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 3 頁)

64非点収差補正型分光器

0)特

願 昭53-163456

②出 願 昭53(1978)12月26日

仰発 明 者 運見律男

群馬県呂楽郡明和村大字南大島 1004番地1号

⑪出 願 人 蓮見律男

群馬県邑楽郡明和村大字南大島 1004番地1号

明 細

1. 発明の名称

非点収差補正型分光器

2. 特許請求の範囲

平面回折格子と円筒状反射鏡またはシリンドリカルレンズの組合せ、もしくは円筒状回折格子により水平方向の波長分散と集光を行ない、入・出射口に置いたスラブレンズ状媒質により垂直方向の集光を行なり事を特徴とする分光器

3. 発明の詳細な説明

との発明は光を波長毎に分光する分光器の非点収差補正機構に関するものである。

光通信のようにレーザ光を利用した分野における分光器の使用の機会が増すにつれて、古典光学用に設計された従来の分光器がレーザ光の分光用には適していない事が明らかとなつてきた。すなわちレーザ光の分光では点光源入射であるから、分光器の非点収差により出射光は緩方向に長い線状になつて出力され、光線の状態が変化してしまり。この事は特にレーザ光を光ファイバに開込め

て光学処理する場合に都合が悪く、非点収差を補 正して点光顔での入・出射を可能にした分光器が 望まれていた。そこでとの発明は分光器の非点収 差補正を簡単な構成で行なり事を目的としており 、そのための手段として平面回折格子と円筒状反 射鏡またはシリンドリカルレンズの組合せ、もし くは円筒状回折格子により水平方向の放長分散と 集光を行ない、入・出射口においたスラブレンズ 状媒質により垂直方向の集光を行なつている。と の方法によれば水平方向は普通の分光器の構成と 全く同じて、垂直方向は常に平行光線のままで光 学処理でき、両方向を別々に取扱う事ができるの で非点収差を無くせる。しかも分光器の分解能と 無関係な垂直方向の広がりを高々数mmにでき、 水平方向の焦点距離によらずに装置を非常に薄く できる利点がある。

以下図面に従ってこの発明の説明を行なう。 新1図はこの発明の一実施例であり、光分光器 への応用例である。第1図において透明誘電体1 は成型加工により分光器の内部の形状になってお

特開 昭55-87925(2)

り、その鑒面に平面回折格子2と円筒状反射鏡3 が直接形成されている。また入・出射口ははこの 例では一体化されており、スラブレンズ状媒質 5 と入射用光ファイバ6と出射用光ファイバ東ッが 取付けられている。 入射用光ファイバ 5 から出た 光日は円筒状反射鏡るにより平行光線となり、平 面回折格子)によつて回折され、再び円筒状反射 鏡るにより集光されて出射用光ファイパ東ァに放 長毎に結合される。垂直方向は第2図に示すよう に入射用光ファイバ 8 から出た光 B はスラプレン メ状媒質 5 により平行光線に変換され、後は透明 紡羅体1の内部は平行光線のまま進み、出射用光 ファイバ東ァへの結合はこの逆になる。第1図に おいて全ての光学素子は分光器としての収差が最 も小さくたる位置に配置されており、名光ファイ バへの結合効率は大幅に改善されている。

無3 図は別の一実施例であり、同じく光分波器への応用例である。 これは平面回折格子 9 に対向してシリンドリカルレンズ 1 0 を貸き、 光軸上に入射用光ファイバ 1 1、 少しずらして出射用光フ

(3)

寄与する。 第4 図にかいて光ファイバ 2 1 かから、 次 た 世 型 枠 1 5 の内 部 空間 2 4 で 広 と 同 時 校 1 6 に よ つ の 内 部 空間 5 れ れ と 同 時 解 れ で た と で た 後 便 年 に 分 か れ て を 換 し 、 ス ラ ブ レ ン ズ 状 ば 質 1 8 は 光 2 3 な 接 質 1 8 北 で で で で で 光 線 変 光 に ス ラ ブ レ ン ズ 状 ば り 撮 の で で で で で 光 2 3 が 効 事 よ く 照 射 さ れ 、 光 2 3 が 数 い 場 分 で も 検 出 で き る 。

アイパ東12を前にスラフレンズ状態質13を前にスラフレンズ状態質13を前にスラフレンズ状態質13を形代スラフレンズ状態質21日間により、アイパ11から出た光16位とリンドリカルレンドリカルレンズ10位類では、シリンドリカルレンズ10位類では、シリカルレンズ10位類では、シリンドリカルレンズ10に非対面の高精度の物を使用する事により収差を小さてきる。

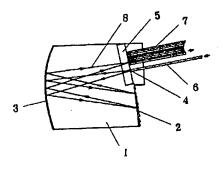
期 4 図 6 別の一実施例であり、光波長計へのに用例である。 この場合は 第 1 図の 実施例とは近新名とは 第 1 図の 実施例とは 近新名 1 名 を 取付けて 3 。 入射口 1 7 と 出射口 1 8 には ス ラブレンズ 状 葉 質 1 9 ・ 2 0 と 光 ファイ に 2 1 と 撮像 素子 2 2 を それ ぞれ 取付けて る 。 不 の 内 節 状 回 折 格 チ 1 6 は 円 筒 状 反射 鏡 と 回 折 格 だ か 一体 化 さ れ た 物 で あり、 水 平 方 向 だ け の 集 先 に

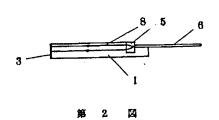
(4)

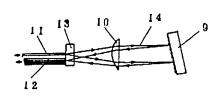
4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の一実施例の平面図であり、 第2図はその側断面図、第3図と第4図はそれぞ れ別の一実施例の平面図である。

(5)







9 3 X

